

円滑な事業承継のポイントを学ぶ



9月10日、高崎市・組合事務所において、高崎電気工事協同組合（小谷野一彦理事長、組合員155人）を対象に「円滑な事業承継のポイント」をテーマに講習会を開催した。講師は有限会社中田計理事務所代表取締役所長齋藤仁志氏。



齋藤仁志氏

齋藤氏はまず、「事業承継とは、経営資源と経営理念を承継すること。経営資源とは、従業員に対する統制力（リーダーシップ）、自社の経営権（持株比率）、銀行等に対する信用（資金力）、事業用資産の承継（担保力）。経営理念は、創業時の理念や価値観、先代の会社に対する思い、何のために働くか等である」と説明。

その上で、「事業承継を円滑に行うためには、事業承継計画書の作成が重要。後継者教育、引継期間、親族・従業員・取引先・銀行対策、財産の処分方法等を具体化・スケ

ジュール化する必要がある」と強調した。

次いで、「中小企業の場合、親族内承継が主流だが、少子化による後継者不足で親族外承継、M&Aも増えている」と説明し、それぞれの承継における利点と欠点を解説した。さらに、後継者への経営権の集中方法を挙げ、その効果や活用する際の留意点等を説明した。

後継者への経営権の集中方法

- ① 贈与
- ② 遺言
- ③ 自社株の引き下げ
- ④ 事業用資産の集中
- ⑤ 民法の特例

最後に、「相続税対策は、いかに相続税を抑えるか。相続対策は、いかにスムーズに承継するかがその目的。その違いをきちんと認識した上で、『争続防止』のために事前準備を行うことが大切である」と締めくくった。

◎研修を終えて

事業承継は必ずやってきます。事業承継円滑化に向けた様々な支援策を活用しながら、計画的な取組みが求められます。

地域中小企業の人材確保・定着支援事業

合同企業説明会開催



230人超が来場

9月16日、前橋市・ヤマダグリーン・ドーム前橋において、地域中小企業の人材確保・定着支援事業の一環として合同企業説明会を開催した。

説明会に先立ち、11時より、就活生のためにジョブカフェぐんま山内弘夫氏を講師に迎え、「群馬の中堅・中小企業の探し方セミナー」を開催した。山内氏は、群馬の中堅・中小企業の現状やそこで働くことの魅力、本説明会での面談の仕方等について解説を行った。

説明会は13時より「サブイベントエリア」において開催。群馬県内に本社・事業所を有する企業で、来春採用を行う予定の中小企業等82社がブースを設けて学生たちの対応にあたった。対象者は平成27年3月卒業予定の大学・大学院・短大・専修学校生に加えて、既卒3年以内の求職者で、会場にはリクルートスーツに身を包んだ230人を超える学生等が集まった。終始真剣な面持ちで採用担当者の説明に耳を傾け、時折求職者から質問をする姿も見受けられた。

なお、合同企業説明会は、本会とともに本事業を受託した株式会社ワークエントリーとの共催で実

施されており、今後、11月12日(水)、12月9日(火)、1月14日(水)に開催する予定となっている。



数多くの企業の説明を聞くため、受付表を複数枚記入している姿が多く見られた

◎説明会を終えて

採用担当者にとっては一度に多くの求職者と触れ合える貴重な機会となっております。また、求職者にとっても様々な企業の説明を採用担当者から直接聞ける良い機会になったのではないかと思います。



若手社員リフレッシュ研修 開催



雨宮利春 氏

9月17日、前橋市・前橋商工会議所会館において、若手社員リフレッシュ研修を開催した。

本研修は、今後の成長が期待される若手社員を対象に、社会人としての自覚の喚起と第一線で活躍できる能力を身に付けることを第一義として毎年開催されている。

今回は、県内企業より39名の参加者（うち6名が女性）を対象に、経営教育コンサルタントの雨宮利春氏が、グループワークやロールプレイング等を取り入れながら研修を行った。



挨拶について学ぶ受講生

研修では、「指示待ち人間」から「自立型人材」への意識変革を図ることを中心テーマに、「組織人」としての役割、仕事を主体的かつ効率的にこなすノウハウ、日ごろ見落としがちなマナー、良好な人間関係を構築する秘訣等、新入社員がスキルアップを図っていく上で、基本的かつ重要な内容について解説が行われた。

雨宮氏は、プロジェクターを駆使して視覚的效果を高めることにより参加者の理解を深めるとともに、グループ討議を織り交ぜながら、社会人として必要な素養について、ユーモアあふれる語り口でわかりやすく説明した。



修了証書授与式の様子

参加した若手社員からは、「社会人として身に付けておかなければならない基本的なマナーについて認識を新たにすることができた。自分自身を見つめ直す良いきっかけとなった」といった意見が聞かれた。

研修終了後には、参加者全員に本会中山正司専務理事より、受講修了証書が手渡された。

◎研修を終えて

筆者も実際に研修に参加させていただきましたが、挨拶やマナー等の基本的なことで改めて気づかされることも多く、とても良い経験になりました。



群馬県商店街振興組合連合会



視察研修開催

栃木県鹿沼市、宇都宮市の商店街を訪問



説明を行う風間氏

初めに地域おこしのキツカケを作った風間教司氏より、イベントの取組みや商店街内のコミュニティ形成の手法について説明を受けた。その後、路地裏を散策しながら、風間氏が営むカフェ「饗茶庵」など9つの店舗を見て回った。

群馬県商店街振興組合連合会（今川守会長、15会員）は9月24日、栃木県鹿沼市・ネコヤド商店街並びに宇都宮市・オリオン通り商店街の視察を行い、県内7商店街並びに群馬県商政課、前橋市役所、桐生市役所、渋川市役所、桐生商工会議所の職員ら関係者31名が参加した。

◆ネコヤド商店街

出店体験イベントをきっかけに、空き店舗への出店を促し、経営の安定化・定着に向けた支援を行うことで、若手による個性的な店が集まる話題のスポット。

◆宇都宮オリオン通り商店街（振）

JR宇都宮駅周辺に位置し中心市街地の中核をなす商店街。補助金活用によるハード整備や官民一体となった空き店舗活用や地域住民に支持されるユニークなイベント等を実施している。

まず同商店街事務局の小林久夫氏より、商店街再生を図るための「未来創生事業計画」や補助金を活用したアーケードの改修、地元の大学や地域住民と連携したイベントについての説明を受けた。その後、宇都宮商工会議所が運営するアンテナショップ「宮カフェ」やイベントスペースのオリオンスクエアの見学を行った。



アンテナショップ「宮カフェ」

◎研修を終えて

ソフト事業やハード事業を通じた商店街活性化について学ぶとともに、情報発信し続けることの重要性を再認識できました。

自由民主党群馬県支部連合会との 経済情勢懇談会開催



10月7日、前橋市・前橋商工会議所会館において、今回で3回目となる自由民主党群馬県支部連合会の県議会議員と本会役員との経済情勢懇談会を開催した。



金子正元会長

主催者を代表して本会金子正元会長が、「中小企業・小規模事業者は、燃料等のコストアップによる収益圧迫や厳しいコストダウン要請、人材確保等の課題に直面している。本日は、意見交換を通じて、現状・課題について、共通の認識を持つていきたいと考えており、中小企業の振興に資する施策立案のきっかけが出来れば幸い。県内中小企業・小規模企業比率は全国平均を上回っており、これら企業



織田沢俊幸幹事長

が元気になれば群馬は元気になると挨拶した。

次いで、自民党県連幹事長の織田沢俊幸氏が「とくに消費税が上がって以降、中小企業の皆さんからは『厳しい、厳しい』との声をお聞きしており、そうした状況を実感している。生の声を聞かせていただき、精一杯取り組んでいきたい」と挨拶を行った。

また、群馬県議会議長の須藤昭男氏が「大澤知事も県内隅々まで景気回復を実感できるよう取り組んでいる。我々も同じベクトル。地方創生担当大臣も誕生した。地方が元気にならないければ日本が元気にならない。現場の貴重な意見をいただきたい」と挨拶を述べた。



須藤昭男県議会議長

次いで、出席者が自己紹介を行った後、金子会長が座長となり懇談会が進められた。意見交換に先立ち、3組合の代表者から、現状・課題等についての報告があった。



群馬県旅館ホテル生活衛生(同)

市川捷次理事長



市川捷次理事長

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の観光客を県内宿泊に結び付ける受入システムの充実、一時のブームで終わらないよう、教育旅行等にも訴求できるアピール方法、関係者による議論の深耕の必要性などの意見を述べた。また、「耐震改修促進法の一部改正」に対するホテル・旅館業界の取組み状況や改修費用、街並み景観の維持等の課題を述べた。

(一社)群馬県信用組合協会

松井誠会長



松井誠会長

国等の景気判断より群馬県経済はシビアで、特に中小企業は厳しいとの認識を示し、堅調な企業に共通する項目として①技術力・開発力、②先を見越した設備投資、③業界情報の確かな把握、④取引先との良好なコミュニケーション、⑤社長の決断力・判断力を挙げた。また、富岡製糸場を含む群馬県の全国へ向けてのPR、ボランティアへの積極的な取り組みを報告した。さらに、人口減少の進む地域に対して一層の支援を要請した。

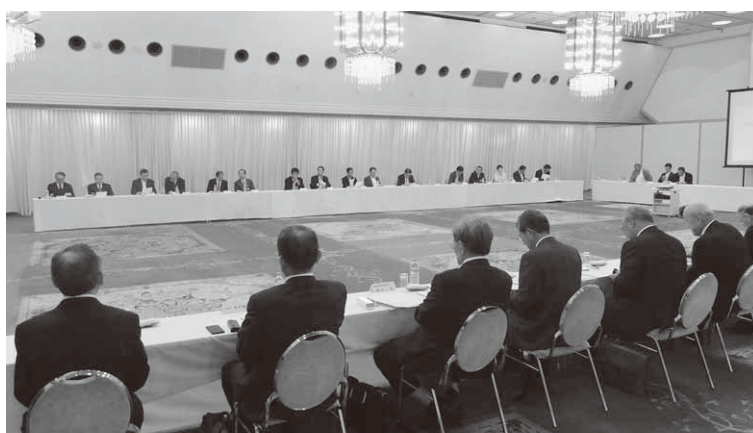
群馬県管工設備(協)

串田紀之理事長



串田紀之理事長

公共事業における発注の平準化、書類の簡素化を一層進めてほしい旨の意見と、人材確保の困難さと人材育成に要する期間等、建設業の特性等についても報告した。また、受注実績のみではなくコスト



ダウンにもつながる新技術の評価について意見を述べた。

3名の報告が終了した後、「富岡製糸場を訪れた観光客に県内に宿泊してもらう方法」「公共事業発注の平準化」「公共工事におけるコストダウンにつながる新技術の評価、採用」「旅館・ホテル等の耐震改修費用」「中小企業憲章に盛り込まれた中小企業の意義」「中心市街地の活性化」等について活発な意見交換が行われた。